



東北大学



報道機関各位

平成 24 年 12 月 21 日
東北大学大学院医学系研究科
いわき市立総合磐城共立病院

消化器疾患治療の地域専門医を育成 東北大学大学院医学系研究科といわき市立総合磐城共立病院との 連携講座設置について

東北大学大学院医学系研究科（以下「本研究科」）といわき市立総合磐城共立病院（以下「磐城共立病院」）は、このたび研究・教育活動における基本協定および連携講座に関する協定を締結いたします。この協定において、消化器疾患の研究・診療拠点として世界をリードするとともに、消化器疾患の研究・診療に従事する優れた専門医を育成を行い、消化器疾患の制圧に向けた地域社会の要請に応える研究・教育活動を連携して推進することを目指します。

講座設置（消化器地域医療医学講座）の概要

現在、胃癌・大腸癌・膵臓癌などの消化器癌による死亡は、日本における癌死亡の約半数を占めています。内視鏡検査やレントゲン検査の進歩により、消化器癌の早期診断・早期治療が行われるようになりましたが、いまだに専門医が少なく全国どこでも標準的な専門医療を受けられるようになっているとは言いがたい状況です。最近急速に普及してきている内視鏡下手術の外科治療技術を有する外科医は少なく、専門家の育成が必要です。また近年、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患が急速に増加していますが、これらの診断治療の経験がある専門医も少ない現状です。よって、消化器内科医および消化器外科医、特に、地域に根ざした専門医の育成は急務であり、また予防的見地からの疫学研究も極めて重要です。

このような背景を鑑み、（1）消化器疾患の病態解明のための基礎的研究の推進、（2）消化器疾患の診断法・治療法に関する臨床研究の推進、（3）これらのプロジェクトに従事し、かつ消化器専門医を基盤とした地域医療医の育成等、を目的として、本研究科に「消化器地域医療医学講座」を設置いたします。

連携協力の形態と範囲

東北大学大学院医学系研究科に次の連携講座を設置します。

名称： 「消化器地域医療医学講座」 Gastrointestinal and Community Medicine

分野構成： (1) 内科学分野 Internal Medicine

(2) 外科学分野 Surgery

(3) 予防医学分野 Preventive Medicine

教員数： 各分野 客員教授1名（分野によっては客員准教授を置く）

教育場所： 東北大学大学院医学系研究科といわき市立総合磐城共立病院

基本協定に関しては、次に掲げる事項について、連携協力を行います。

1. 共同研究の推進
2. 人材育成の推進
3. 研究者の相互交流
4. 研究設備の相互利用
5. 研究資源の相互利用
6. 知的財産の管理活用
7. 関連する研究成果等の情報交換
8. その他両者間で合意した事項

背景

人間は口から食物を食べ、消化器で栄養素を消化吸収することにより、糖というエネルギー源や蛋白質・脂質といった体の構成要素を取り込んでいます。人間が活動するためには消化器という栄養の取り込み口が必要であり、消化器は生命を維持するためにはなくてはならない器官ですが、消化器は消化管の内容物と直接しているため、様々な刺激によって疾患をきたしやすい器官であるといえます。近年、胃癌・大腸癌などに代表される消化器癌による死亡は癌死亡の半数以上を占めており、2010年の統計では、胃癌による死亡者数は50,136人、大腸癌によるものは44,620人、肝癌によるもの32,765人、膵癌によるもの28,017人と報告されています。また食生活の欧米化に伴い、難病に指定されている潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患の患者数も急速に増加しています。2009年度の統計では、潰瘍性大腸炎医療受給者証交付件数は約113,000人、クローン病医療受給者証交付件数は約30,000人と極めて多くなっています。さらに、B型肝炎やC型肝炎、これらが進行した肝硬変・肝癌の診断と治療体制の整備も急務であり、内科治療・外科治療の需要は高まっています。

消化器癌の早期診断・早期治療は、近年の内視鏡検査や各種画像診断の進歩により可能となってきましたが、これらには高度な技術と専門的知識が必要とされます。例えば、早期大腸癌に対する根治的内視鏡治療や、胆・膵癌に対する超音波内視鏡下生検などの内視鏡技術には、多数の臨床例による実地トレーニングを必要とします。また、炎症性疾患や各種肝炎に対しては様々な分子標的治療薬・新規薬剤が登場しており、これらの薬剤の使用には専門的な知識が必要で熟練を要します。高度な技術を要する内視鏡手術は優れた専門医の指導の元での育成が必須であり、教育的施設による組織的な内視鏡外科医育成が急務です。特に、肝胆膵領域では合併症が多発し周術期死亡率が高くなる高難度手術が多いため、肝胆膵高度技能専門医制度の整備、ハイボリュームセンターと呼ばれる専門病院に疾患を集中させて若手外科医を育成することが開始されています。消化器疾患に対する診断・治療には熟練した専門医と専門的施設が必要であり、しかも、その専門的施設は地域医療の中核拠点病院となるべきです。

これからの地域医療を支えるためには、基本的かつ全人的な医療知識・技術を持つ医師、具体的には、救急、内科、外科、産婦人科などの基本的知識と技術をもついわゆる「総合医」が望まれます。東北大学大学院医学系研究科（以下「本研究科」）の重要な使命は、地域医療に貢献できる医師を育成することであり、本研究科は、消化器疾患に関連した各分野において、これまでに大きな成果をあげるとともに、消化器研究に従事する優秀な人材を育成して、社会からの要請に応じてきました。一方、いわき市立総合磐城共立病院（以下「磐城共立病院」）では、初期臨床必修化が開始される前から東北大学の学生を多数受け入れ、初期臨床研修・後期臨床研修を行ってきました。これまでは各科の連携によって「総合医」を育成してきましたが、これを今後も継続・発展させるためには、より組織化された教育システムの充実化を図る必要があります。磐城共立病院では、専門高度診療センターとして「炎症性腸疾患センター」、「肝炎対策センター」を設置し、地域における高度専門医療を担っており、初期臨床研修・後期臨床研修で養った基盤的医療知識・技術をさらに発展させ、消化器を基盤とした専門医を育成するために極めて適切な病院です。したがって、本研究科と消化器疾患の地域医療診療拠点である磐城共立病院との間で連携に関する基本協定を締結することは、消化器疾患の研究とその研究成果の臨床応用、また消化器を基盤とした地域医療従事者育成の推進のために極めて重要です。

消化器疾患は、人間の生活の上で欠くことができない食事や排便に直結する疾患で、最も疾患数が多い疾患です。消化器内科として内視鏡検査やレントゲン検査を施行する能力、消化器外科として急性虫垂炎手術やヘルニア手術を行うことができる基本的知識と技術を養った上で、胃癌・大腸癌・膵癌などの消化器癌の診断や治療、B型肝炎、C型肝炎、炎症性腸疾患などの難病の診断・治療、そして介入研究などの臨床研究、特にランダム化比較試験を企画・運営・実行する人材が不可欠です。「消化器地域医療医学講座」は消化器研究の将来を担う人材を育成することを目指します。

(お問い合わせ先)

東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野 教授

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1番1号

海野 倫明 (うんの みちあき)

TEL: 022-717-7202

FAX: 022-717-7209

いわき市立総合磐城共立病院 院長

樋渡 信夫 (ひわたし のぶお)

〒973-8555 福島県いわき市内郷御厩町久世原16

TEL: 0246-26-3151

FAX: 0246-26-2224

(報道担当)

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室

長神 風二 (ながみ ふうじ)

TEL: 022-717-7908

FAX: 022-717-8187

Eメール: f-nagami@med.tohoku.ac.jp